

クロスメディア化で変わる地方局の強み

データ放送をゲートウェイとして連携

地域コンテンツで収益拡大

2011年7月24日のアナログ放送の停波により、地上デジタル放送が本格化して4カ月。デジタル技術による新たな放送サービスがさまざまな形で進められている。中でも、データ放送を本格活用し、通信メディアを取り込み、地域の活性化とともに収益の拡大を目指す動きが各地方局で始まっている。そのクロスメディア展開のなかで、データ放送リーディングカンパニーであるメディアキャストの杉本孝浩氏に、地方局にとっての今後のデータ放送の役割について聞いた。

(編集部)

地上波完全デジタル化とが期待されます。以降、デジタル放送が本格始動し、新たなサービス、新たなビジネスの拡大が期待されています。地方局にとって、データ放送を放送のデジタル化は、地域情報の発信による地域の活性化、地域経済との連携による収益拡大という、地方局ならではの強みをおこなうには、最近の動きをこれまでに生かすことができる絶好の機会と言えるでしょう。広告収益としては、これまでのナショナルスポンサーとの連携に加え、地域の商店やスーパーの販促費をも対象にした広告展開を進めることで、地域コミュニティの役割を担いつつ収益性を高めることも見えてくる。女性問わず誰にでも見られる、送らなくても送らなくても、優位性を活かしたクロスメディア展開が求められ、そのなかで、データ放送こそが放送と通信の「ゲートウェイ」としての役割が期待されています。

一方、2000年のBSデジタルから開始されたデータ放送ですが、さまざまな理由で、必ずしも有効活用されているとは言えない現状です。しかし、この数年間でデータ放送に地方局にとっては、環境が大きく進化し、操作性に優れたBML制作ツールとともに制作会社も増え、低価格で高機能な設備など、ローカル放送設備の導入が可能になりつつあり、地方局でのデータ放送の活用が広がってきています。

既にいくつかの放送局では、データ放送を用いた収益性を持つ地域連携型コンテンツを発信しているほか、双方番組の試みも行われております。また、150局以上のCATV事業者がデータ放送を開始したことも注目を集めています。

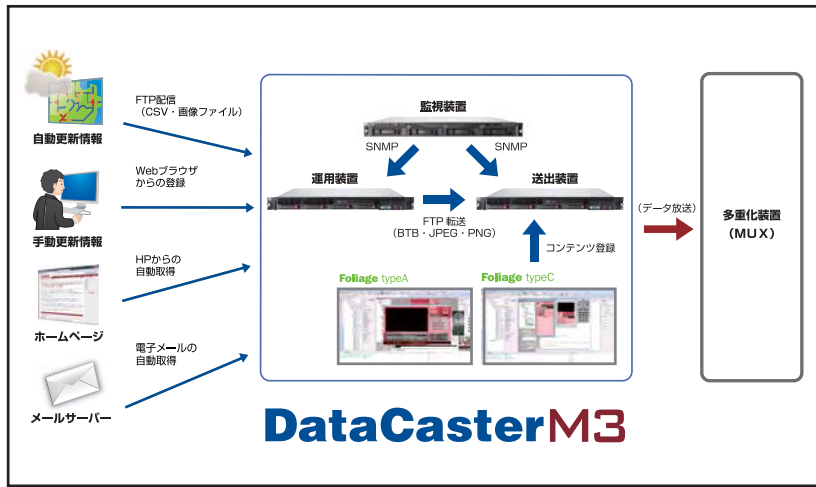
今年3月の東北大地震においても、各局がデータ放送で災害情報を配信してあります。画像を入力するだけの簡単な操作による手動情報更新や、FTPによる外部サーバーからの自動情報更新が可能である。

ネットワーク系通信メディアのサービスは、最近のスマートフォンでの拡大・浸透とともに既に成長を続けた。広告シナリオの中でも一定の位置を占めるようになりつつあります。放送のデジタル化の流れの中で、こうした通信メディアをも活用し、圧倒的な同報性と速報性、お茶の間にある家庭内で一番大きいモニター、若者男女問わず誰にでも見られる、送らなくても送らなくても、優位性を活かしたクロスメディア展開が求められ、そのなかで、データ放送こそが放送と通信の「ゲートウェイ」としての役割が期待されています。



杉本社長
データ放送が求められるなかで、女性問わず誰にでも見られる、送らなくても送らなくても、優位性を活かしたクロスメディア展開が求められ、そのなかで、データ放送こそが放送と通信の「ゲートウェイ」としての役割が期待されています。

統合型データ放送システムソリューション DataCaster M3



データ放送には、制作、運用、送出の3つの環境が必要とされるが、MediaCaster M3は、BMLオーサリングツールやCMS、送出装置が統合されたシステム環境を提供しています。

制作環境では、NHKをはじめ放送局や制作会社へ数百本の納入実績のあるFoliageシリーズが同梱されており、GUI操作によるBML編集とともに、画面プレビュー、更にECMAScriptパッケージ機能まで搭載されている。運用環境では、今までデータ放送業界で多く使われてきたメディアキャスターの高品質減色技術「LACE」や「MIC-Lib」をベースとしたARIB自動変換機能を標準搭載し、今後のクロスメディア展開に対応するために、1つの情報でウェブやモバイル、その他のメディアにも配信出来るようXML出力機能を搭載したCMSが組み込まれている。当CMSにより運用者はウェブブラウザからテキストと

この3つの環境を備えたDataCaster M3とともに、それら技術に精通し多くの経験を持つメディアキャスター技術陣により、魅力的なコンテンツ制作や効率的な運用、そして各系列ネットワークとの連携などが容易に実現可能である。

固定受信データ放送用 BMLオーサリングツール

Foliage typeA Foliage typeC

BML初心者から上級者まで幅広いユーザが利用可能な国内唯一の汎用BMLオーサリングツール
直観的なマウス操作によるBML編集機能や画面プレビュー、そして高精度な動作検証が可能なデバッグ機能までを一つのソフトに集約

文字スーパー / イベントメッセージ同時送出装置

SparkMUX

地震情報など緊急災害速報を瞬時に画面へ表示可能な文字スーパー送出と、データ放送と連動可能なイベントメッセージの同時送出が可能
災害時の即時性を要する速報などの第一報を文字スーパーで瞬時に視聴者に伝え、イベントメッセージでデータ放送と連携させることで、被災後に関連する詳細情報を随時データ放送できめ細かく伝えることが可能で、第二次災害の抑制につながられる

拡大する地方局データ放送

地方局におけるデータ放送を活用した新たな模索が既に始まっている。映像新聞9月26日号で既報のとおり、チューリップテレビは、10月1日から自社制作によるデータ放送コンテンツを発信し、地域の天気予報やローカルニュースといったオリジナルコンテンツや富山県の行政広報などを紹介している。また、データ放送を軸にしたクロスメディアの構築への新たなツールが登場している。チューリップテレビの取り組みと、これらのツールの特長や導入事例を紹介する。

チューリップテレビ

数カ月の検証を経て本格運用

チューリップテレビでデータ放送を独自の地域コンテンツ発信に用いようとする。地域情報発信の考えなのだ。

地方局におけるデータ放送はこれまで、データ放送の多額の設備投資や、技術者の確保などのため、独自コンテンツを配信する方向として、ネット局からのデータ放送をそのまま流すだけだった。今回の自社でのデータ放送を独自に制作するのは、技術者の確保などのため、独自コンテンツを配信する方向として、ネット局からのデータ放送をそのまま流すだけだった。今回の自社でのデータ放送を独自に制作するのは、技術者の確保などのため、独自コンテンツを配信する方向として、ネット局からのデータ放送をそのまま流すだけだった。



取材に応じてくれた企画室の藤井室長、黒崎氏、編成技術局の立花氏

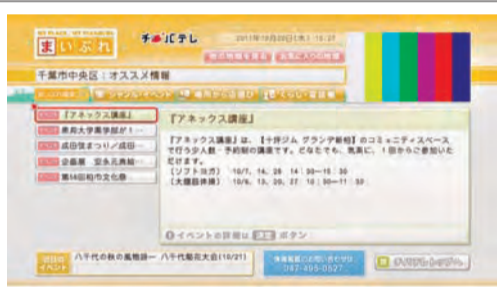
放送コンテンツ制作のプロジェクトを提案した同社企画室 室長の藤井淳氏は、次のように話す。「チューリップテレビでは通常の番組づくりにおいて、既存のモバイルを活用した双方向で地域の視聴者との連携を進めてきた。データ放送は簡単な操作で若者男女誰にでも見られるのがデータ放送。今後の地方局にとっては地方発信力がキーであり、放送局のえにテレビを使った情報配信であるデータ放送は必須と考える。しかしこれまで、独自コンテンツを提供するための設備はとも高価で、データ放送の規格が難解なため、地方局としては手が出せなかったというのが現状だった(藤井氏)。チューリップテレビでは、昨年末から数カ月にわたり、メディアキャス

トと共同で地域コンテンツの制作から配信までのワークフローの検討を重ねてきた。企画室の黒崎亨氏は、「今回導入したメディアキャスト製「DataCaster M3」により、これまで高価で手が出なかったローカルにおけるデータ放送送出が実現した。機材が安価であったことも大きな導入要因だったが、実際にオペレーション、運用までの環境作りや、完成後のメンテナンスなど、サポート面での協力があったことで、安心して導入をすることができた」と言う。黒崎氏はまた、「系列局がローカル送出する場

コンテンツ収集と広告営業をワンストップで!

まいぶれ

「まいぶれ」は全国150以上のエリアで展開するクロスメディア型地域情報サイト。「まいぶれ」



「まいぶれ」側で行うことが可能です。また全国各地の「まいぶれ」運営会社が地域の店舗など情報発信者から掲載料を徴収し、その一部を放送局様にシエする仕組みであるため、放送局様では特別な事務局および営業組織などの過大な人員体制や、コンテンツ配信料などの余計なコスト負担を必要

「まいぶれ」側で行うことが可能です。また全国各地の「まいぶれ」運営会社が地域の店舗など情報発信者から掲載料を徴収し、その一部を放送局様にシエする仕組みであるため、放送局様では特別な事務局および営業組織などの過大な人員体制や、コンテンツ配信料などの余計なコスト負担を必要

【お問合せ先】株式会社フューチャーリンクネットワーク メディアプラットフォーム グループ 0471-4951-0559

【お問合せ先】株式会社フューチャーリンクネットワーク メディアプラットフォーム グループ 0471-4951-0559

delids

クロスメディア情報の入稿支援ASP

画面より調査・編成するだけで、各種メディアデータ放送コンテンツ向けに、放送局向けデータ出力や、PC・携帯向けデータ出力も可能とするシステム」を実現しています。出力形式としては、データ放送コンテンツ向けに、セキリティと免震性を確保しており、利便性・信頼性の高いサービスをご利用いただけます。



【お問合せ先】株式会社キューティンフォコム 092-77118516

【お問合せ先】株式会社キューティンフォコム 092-77118516

PiTENTRY2

視聴者参加型の双方向番組制作を支援

データ放送の強みとして挙げられるのが、視聴者参加型のクイズや、アンケート等、通信機能を使った双方向機能。近年地上波の番組でも目にする機会が増えてきた。しかし実現にあたってはBMLの制作に加え、バックエンドの受け付けシステムの構築が必要で、費用

面でも障害となる。PiTENTRY2はデータ放送に加え、携帯電話や、PC等、ウェブからの視聴者参加も一元管理できるASP(システム時間貸し)サービス。番組制作スタッフがウェブ上の管理画面からクイズや、アンケートの設定を行うだけで、データ放送

ウェブ上に視聴者参加機能が生成されるので、専門の技術者を必要とせず、制作・運行できるのが特徴。

また、視聴者から写真を受け付け、データ放送上に表示する事も可能なので、新たなコンテンツの切り口が期待できるほか、実際に番組が放送されている時間に視聴者にアクセスさせる事でリアルタイム視聴を促す効果も期待できる。

サービスは2005年から全国の放送局で採用されており、価格は地



双方向番組のデモ画面

上波放送局で週一番組の場合21万7500円/月から。

【お問合せ先】株式会社フィックス 076-265-3030

お問合せ先



株式会社メディアキャスト

〒150-0044 東京都渋谷区円山町5-3 玉川ビル5階

TEL : 03-5728-4663 FAX : 03-5728-4639

URL : http://www.mcast.co.jp/